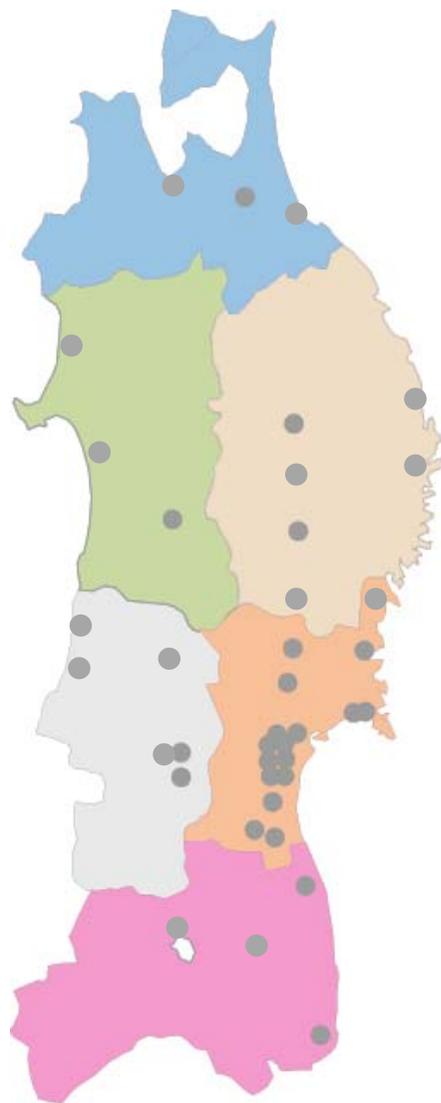


東北大学における肺高血圧診療のご紹介

当科での肺高血圧（PH）の診療についてご紹介します。

当科では、6名の教官と数名の大学院生が「循環グループ」として心不全とPHを中心とした診療と研究を行っています。東北大学病院は、東日本で数少ない肺移植と心移植の両治療を行える施設ですので、東北地方の全域に加えて全国の広い地域の医療機関からPHと重症心不全の症例の紹介を受けていることが特徴です。

東北地方地図 紹介頂いた病院

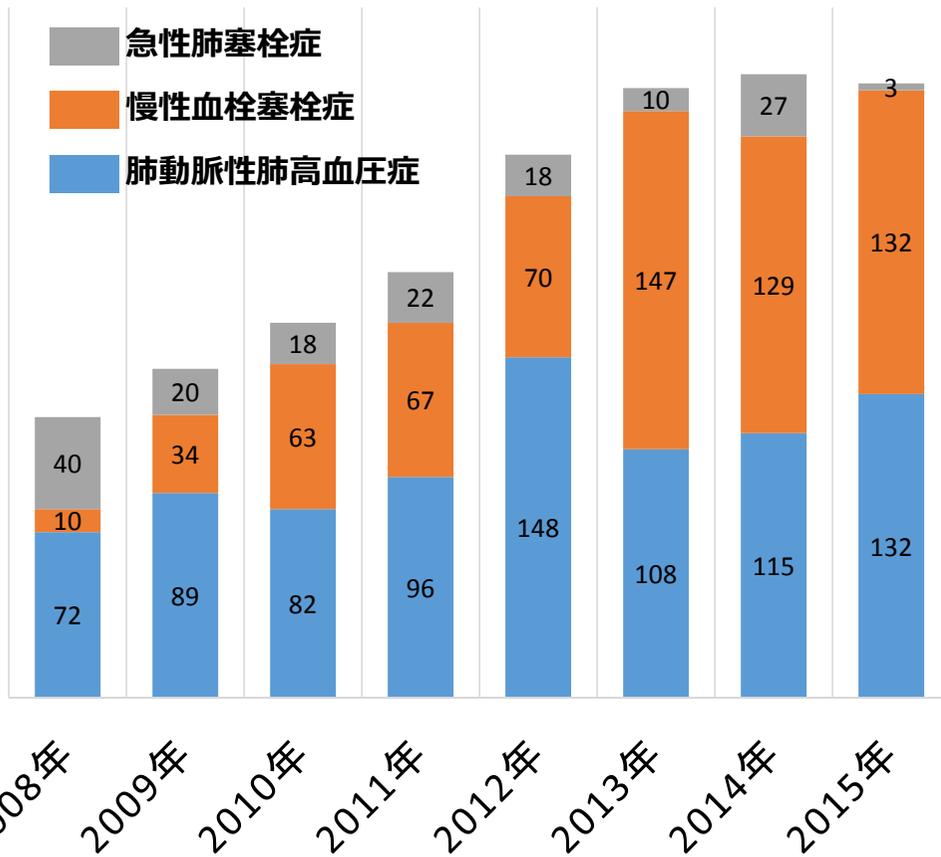




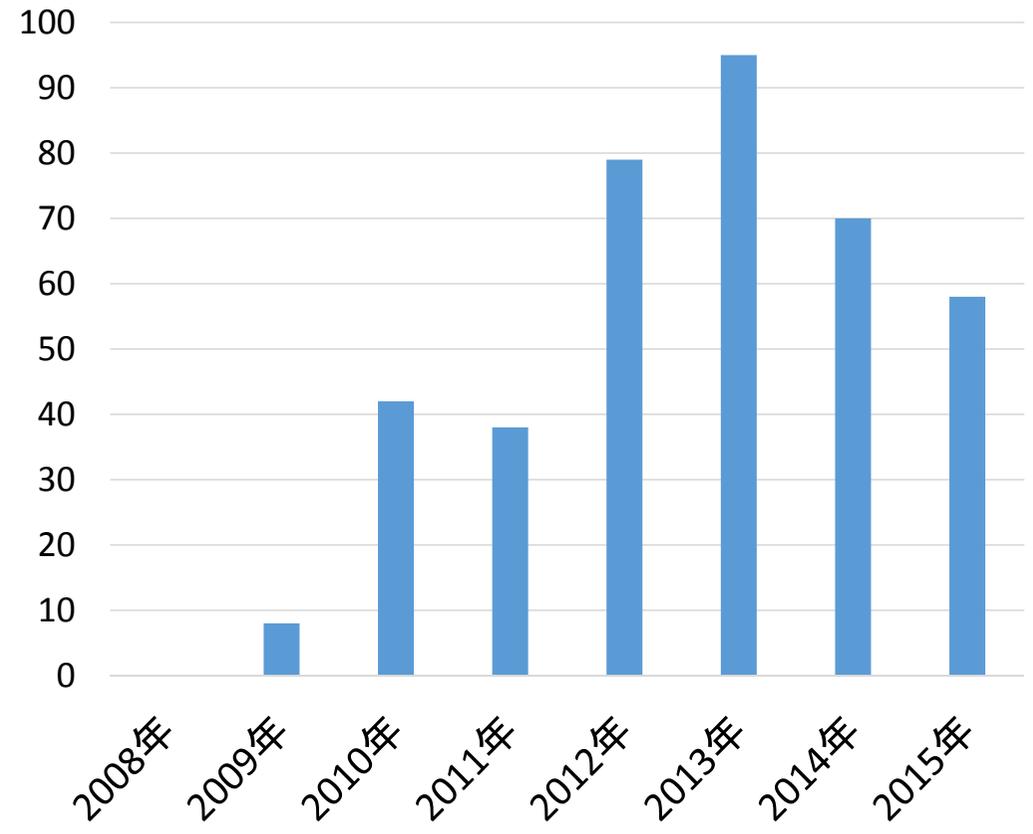
東北大学における肺高血圧診療のご紹介

PHに対するPGI₂持続静注療法は1999年より行っており、10年を超える経過の症例も経験しています。また、新たに開発された肺血管拡張薬の使用経験も豊富であり、現在ではPGI₂製剤に加え、エンドセリン受容体拮抗薬、PDE-5阻害薬の2種類を加えた3剤併用を基本として、症例毎の薬物治療を常にグループ内で検討しながら診療を進めています。また、関連する呼吸器外科・呼吸器内科・血液免疫科とは常に密な連携を取り、共同でPH診療に当たっています。各診療科とは連絡体制が確立しており、スクリーニングの心エコーで推定肺動脈圧40mmHgを超える症例は、PHの精査を積極的に行い、早期診断・治療につなげるように努力しています。特に、血液免疫科と共に、適応となる症例には免疫抑制療法を積極的に行っており、肺血管拡張薬治療と平行して両科で治療を進めることで、これまでも良好な成績を認めています。肺移植に関しては、現在までに24例の肺高血圧症の肺移植を経験しており、移植前からの管理、適応についての協議、そして移植後の管理に至るまで、呼吸器外科・呼吸器内科と共同で診療を行ってきました。

肺循環疾患 カテーテル総件数

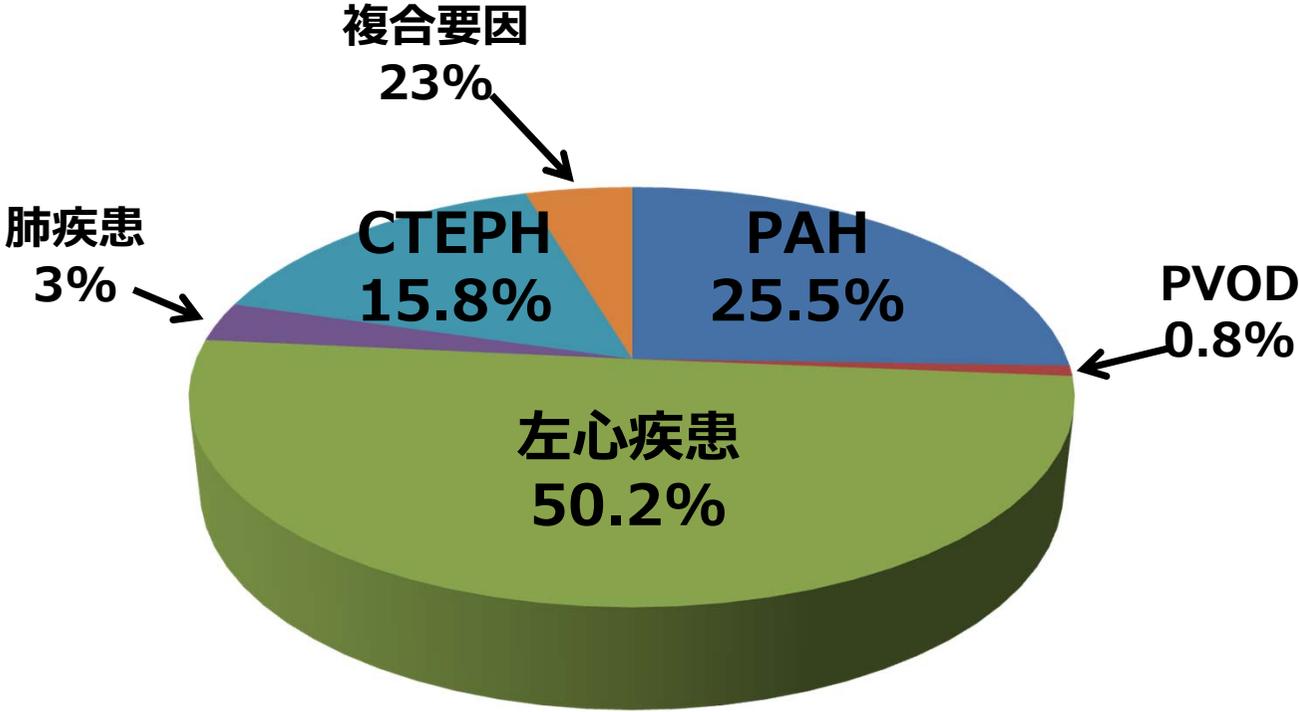


肺動脈インターベンション



東北大学病院循環器内科における肺高血圧症

2015年3月までの全590例



東北大学における肺高血圧診療のご紹介

また、初回検査では、右心カテだけでなく左心カテも行い、左心性PHの鑑別に関しても正確な診断を心がけています。左心性PHは肺高血圧症の中で最も頻度が多いと言われていますが、心移植施設でもある東北大学病院では、重症心不全の診療にも力を入れており、症例数は年々増加してきています。

最近では肺血栓内膜摘出術の非適応例である慢性血栓塞栓性肺高血圧症（CTEPH）の症例に対してカテーテルによる肺動脈形成術（BPA）が行われるようになり、その日常生活や予後の改善にはめざましい進歩があります。当科でも2009年より早々にこのBPA治療法を導入し、これまでに80症例において実施し、治療成績は5年生存率98%と非常に良い成績を上げています。

東北大学でのPH登録患者数は590症例となっています。また、多くの関係者のご協力により、移植におけるレシピエント肺や血液検体を使用させていただいた基礎研究も行っており、創薬につながる多くの研究成果も得られています。PHは、その成因や病態・疫学など、まだ多くの知見の集積が必要な領域ですので、この難治性疾患の克服に貢献できるよう基礎研究と臨床研究の両輪で貢献したいと考えています。

（文責 東北大学病院：杉村 宏一郎）